

27 木と住まいの大博覧会 2019 東京

- 【期 日】 平成 31 年 2 月 1 日（金）～2 日（土）
【会 場】 東京ビッグサイト西 2 ホール（東京都江東区有明 3-11-1）
【来 場 者】 46,074 名（1 日目：18,231 名、2 日目：27,843 名、主催者発表）
【内 容】 以下のとおり

国内木材流通・住宅メーカー「ナイス株式会社」の主催により、建材・内装メーカーや「木の暮らし」も関連する事業者が多数出展する「住まいの耐震博覧会・住まいの大博覧会」が東京ビッグサイトで開催されました。東京ビッグサイト西館全体が会場となる中、ホール中央では毎朝主催者及び出展者を集めた「全体朝礼」が行われたほか、耐震建築等に関するシンポジウムや子供向けのキャラクターショーが行われていました。

木曽広域連合は「木と住まいの大博覧会」として西 2 ホールの 1 ブースが割り当てられ、地元木工製品の展示及び木工体験を行いました。

展示では、カネキン小椋製盆所様の「ろくろ細工スピーカー」のほか、楯木工製作所様の「ペンダントライト」、今泉製作所様の「御嶽海像」など木像 4 点、木祖産業協同組合様の「木製パーティーション」、マルオカ工業様の「長野県産材製 床板・壁板」「ミニ酒樽」などを展示しました。

今回特に来場者の注目を集めていたのは「ペンダントライト」でした。直径約 60cm のヒノキ製で、五角形と六角形の組子細工をサッカーボールのように組み合わせた照明器具で、繊細な仕上がりで美しさに多くの方が写真を撮っていらっしゃいました。また、マルオカ工業様の「床板・壁板」は、長野県産材の表面に模様を付けたもので、加熱しながら圧縮することで表面に被膜ができ、木の肌触りを残しながら撥水効果が得られるため、塗装が不要となるものです。会長が直接来場者に説明され、リフォームを考えている方からサンプル取り寄せの問い合わせもありました。来場者が住宅関連業者や施主中心のため、建材に興味がある方が多くて話が通じやすく、競合する業者もいなかったため、参加した事業者側としても本イベントは好感触だったようです。

木工体験では、木祖村の奥谷木工所様の御協力により、「木皿のオイル仕上げ体験」を行いました。ろくろ細工で作られた木の皿をお買い上げいただき、仕上げ工程となる油塗りの作業を行うもので、食用のクルミを布に包んで潰し、滲み出てきた油を皿の表面に塗っていきます。最後に電熱ペンで名前や絵を描いて完成となります。作品とクルミは持ち帰っていただき、自宅で繰り返し塗っていただくことで、色に深みが増してくるとのことです。

当初は 1 時間ごと区切って実施する予定でしたが、申込者が少なかつたため随時対応に切り替えました。1 人あたり 20～30 分でできる内容でしたが、時間のない方には値引きして販売のみの対応も行い、売上は 101,300 円となりました（体験者：29 名、購入のみ：18 名）。木皿の表示価格には体験料（500 円）を含んでおり、購入のみの方には値引きしてお得感を出すことで売上が伸びました。

これまでは交流事業の実行委員（広域連合及び地域振興局職員）のみの参加であったため、PR としては説得力が弱いところがありましたが、今回は地元事業者の参加により、製品の詳細や製作者の思いについて来場者に直接伝えることができたことが良かったと思います。

☆ 会場の様子



木と住まいの大博覧会 会場全景



シンポジウム



木曽広域連合ブース



展示コーナーの来場者



展示コーナー（マルオカ工業）



木工体験（販売・体験用の木皿）



木工体験の様子